

【令和3年度 部会進捗状況】

*WG=ワーキンググループ

no.	部会名	今年度の目標	4～6月の振り返り	課題	7～9月の目標	7～9月の評価と課題	10～12月の目標
1	就労支援部会	<ul style="list-style-type: none"> ・企業向けに障害者雇用フォーラム、しごとサロンたかまつ(障害者就職相談会)の開催 ・障害のある高校生・大学生の就労支援として、高校・大学を訪問し、先生・生徒・父兄に対し、啓発したり、必要に応じて就労支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を通して、今年度の計画について検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議をzoom等オンラインで実施したいが、IT環境を設定できておらず、苦慮している。 ・コロナ禍のため、雇用フォーラム、しごとサロンたかまつの実施方法を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しごとサロンたかまつを8月に実施していく。 ・訪問等をGoogle Driveなどの手段で管理し、関係機関職員が進捗を共有できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しごとサロンたかまつについては、募集し、9名の参加をいただいていたが、最終中止し、就業・生活支援センターなどに引き続きをし、相談支援していくこととした。訪問等をGoogle Driveなどの手段で管理し、関係機関職員が進捗を共有できるようにしていくことについては、試行中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問等をGoogle Driveなどの手段で管理し、関係機関職員が進捗を共有できるようにしていく。 ・2月の雇用フォーラムについては、完全オンラインで実施の方向とし、準備をすすめている。
2	精神保健福祉部会	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉関係者による協議の場の継続 ・地域移行・地域定着の推進 ・ピアサポーターや関係機関、支援者間の連携強化 ・大川圏域との連携・協力体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月中に今年度の部会・WGの活動計画について一部共有。(WGによっては未開催) ・部会の開催方法についても調整。 ・5月については会議を中止。高齢者の退院支援の流れの資料確認。広報準備。 ・6月の活動については未定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大状況によっては、協議の場自体が継続困難。 ・医療機関に入ることが難しく地域移行支援が進みにくい。 ・ピアサポーター関係者についてはリモート会議自体が困難。 ・大川圏域の部会も中止となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会全体として、対面会議以外の方法の検討と整備。(リモート会議、メール・書面会議等の検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面でのコア会議を実施できなかったため、今後の方向性については確認できたが、それ以外の項目は、多くの会議が中止となってしまい、議論が進められていない。また、中止になった会議の延期は決定しているが、リモート会議や書面会議への移行の検討ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、医療と福祉の連携ワークショップの企画と開催。 ・精神科病院からの高齢者の退院支援のポイントの活用状況の確認。 ・ピアサポート活動推進WGのピア委員の増員と今後の活動の検討。
3	相談支援部会	<ol style="list-style-type: none"> 1 メンバー全体の意見が集約できることを目指す 2 WGの目的を明確にし、ゴールを目指す 3 相談支援専門員全体のスキルアップを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月はZOOMを利用して、会場とのハイブリッドで実施した ・5月はコロナの感染拡大に伴い、部会は中止し、メール上での意見のやり取りとした ・参加者が多いこともあり、メール上で意見のやり取りをすると、集約が煩雑となるので、6月はまたZOOMと会場でのハイブリッドで実施予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害のある方の緊急時の受け入れ先がないこと、行動援護や移動支援の提供事業所がない ・コロナに関する情報共有(事業所に関すること等)ができていない ・利用者、家族が濃厚接触者になった場合のサービス提供が難しい ・事業所全体のヘルパー不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで出てきている課題について、地域での状況を検証する ・進捗が遅れている研修やWGの検討に着手する 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の部会で、各事業所から課題と思われることを聞き取ったが、コア会議も開催できていないので、その整理がまだできていない。 ・研修の企画まではしたが、実施ができていない。今後のコロナの感染状況を見ながら、実施に向けて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何らかの方法で、コア会議を行い、課題の整理をして、それをどう解決に向けていくかを検討する。 ・企画している研修をどう実施するか協議する。

no.	部会名	今年度の目標	4～6月の振り返り	課題	7～9月の目標	7～9月の評価と課題	10～12月の目標
4	身体障害者支援部会	<p>○防災に対する取り組み</p> <p>・サービス提供事業所向け研修会の実施・災害弱者あんしんネットワークとの連携・起震車を活用した体験の機会を設ける</p> <p>○ピアサポーターに関すること</p> <p>・県が行う研修へ参加し共有する。・Zoom等オンラインでの活動が可能か探る</p> <p>○地域移行に関すること</p> <p>・県協議会の動向を把握し、状況に応じて具体的な取り組みを検討する。</p>	<p>1回目会議 4月14日（水）実施</p> <p>今年度の会議の在り方、役割分担の確認</p> <p>5～6月</p> <p>研修会日程、会場、講師の選定をおこなった</p> <p>起震車の活用について情報収集をおこなった</p> <p>6月16日（水）実施予定</p> <p>情報を共有し、実施に向けた段取りと検討していく</p>	<p>研修会、起震車の活用共に、コロナ禍のため、実施できるかどうか不安がある。</p>	<p>実施に向けた具体的な準備を進める</p>	<p>第3回部会をリモート会議で実施した。8月11日（水）</p> <p>○10月30日講演会について協議</p> <p>「東日本大震災障害者施設で起こったこと」講師：鈴木徳和氏</p> <p>対象事業所へ開催案内をおこない、申し込み受付を開始した。</p> <p>Zoom30名、会場40名を予定</p> <p>○ピアサポートについて</p> <p>高松圏域精神障がい者、身体障がい者等支援に関するピアサポーター派遣におけるピアサポーター登録で活用する活動申込書書式について、助言をおこなった。</p>	<p>○10月30日（土）講演会実施。</p> <p>○講演会の振り返りを実施。</p> <p>○災害弱者あんしんネットワークとのコラボについて内容と方法の検討をおこなう。</p> <p>○部会の会議はオンライン活用もおこなう。</p> <p>○その他コロナ禍でもできる取り組みを検討する。</p>
5	知的障害者支援部会	<p>親なきあとWG、地域移行WG毎にk活動する。部会年3回、各WGに4回を予定。親なきあとWG：保護者と担当相談支援専門員が緊急に備えて協力して準備できることを整理し、関係機関との情報共有、協力を促す。地域移行WG：現状やこれまでの取り組みを整理して共有し、広く考えることができる体制をつくる。</p>	<p>・4月コアメンバーで打合せ</p> <p>・5/7部会実施し、今年度の活動について確認する。</p> <p>・6月それぞれWG開催を予定している。</p>	<p>（地域移行WG）6月開催</p> <p>これまでの意見を整理し、地域資源についても検討したが、資源不足、人員不足との話題になり、手詰まり感あり。</p>	<p>・7～8月 各WG開催</p> <p>・9月部会を開催し全体共有する</p>	<p>（地域移行WG）7月開催。①相談支援専門員3名に参加頂き、事例紹介・情報交換を実施②県地域移行部会の動きを確認。/より意見整理が進んで良かった。今後、相談支援専門員やサービス管理責任者の当ワーキングへの参加が課題。</p> <p>（親なきあとWG）</p> <p>6月開催。①手をつなぐ育成会、中部養護学校など4機関で集り、親なきあとのためにご本人の情報を整理しておくツールについての情報交換。②日常生活自立支援事業の利用等について県社協を訪問したことを報告。/保護者と相談員がそれぞれ使用している情報整理ツールを共有できて良かった。</p> <p>（部会全体会）9月半ばに予定</p>	<p>（地域移行WG）入所せず地域生活が続いている好事例について、関係者に参加頂き情報収集する。</p> <p>（親なきあとWG）</p> <p>緊急事態発生時の対応についてのリスト（準備物、連絡先等）を作成する方法を検討する。作成後の周知方法について検討する</p>

no.	部会名	今年度の目標	4～6月の振り返り	課題	7～9月の目標	7～9月の評価と課題	10～12月の目標
6	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・部会や協議会の課題への取り組みがより共有され充実するよう運営会議のあり方を見直す。 ・意思決定支援WGにおいて、相談支援専門員とサービス管理責任者の協力のもと研修を行う。 ・災害時WGにおいて、医療的ケアの必要な方の災害時プラン作成を進める。 ・就労継続支援B型事業所の協議会との連携の在り方検討WGにおいて、就労継続支援B型事業所間の連携を促進する取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に新しい運営会議のもちかたを提案しご意見をいただき決定した。 ・5～6月にかけてメールでの意見交換による全体会を開催している最中である。 ・5/11よりコロナウイルス感染拡大により協議会活動を中止、6/1より部会活動のみ一部再開している。 ・4月、意思決定支援WGを開催しモデル事例のその後の状況と実施する研修について協議している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で新しいかたちの運営会議が開催できず7月に実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいかたちの運営会議で7月、9月を実施予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に運営会議を開催、9月はメールでの意見交換で実施中（8月は開催しない月）。部会の進捗管理表を作成して協議を行った。 ・意思決定支援、災害時、就労継続支援B型事業所ネットワークの各WGについては別紙進捗状況管理表の通り。 ・7月に生じた講師料から源泉徴収事務を開始し、9月に納税を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10/8運営会議、11月全体会、12/12運営会議開催予定。 ・相談支援部会で協議している課題についても、進捗状況管理表で共有化を図っていきたい。 ・協議会Hp「地域のお役立ち情報」について、ご本人が情報を収集する視点の構成に変更を検討し今年度中に改修する。 ・主任相談支援専門員の役割について、運営会議で議論を進めていく。
7	発達障害部会	<ol style="list-style-type: none"> 1) 高校生活ガイドブックの普及 2) 市町職員研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に事務局会を開催して、左記1) 2) について確認した。 ・5月の事務局会は開催できず、進捗はなかった。 ・6月25日に事務局会を開催して、具体的な進め方について協議する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 高校やそのほかの現場へのガイドブックの普及のために、それぞれの機関との連携/交流を図る。 2) 市町窓口のニーズを掘り起こして、それに応えるための方法を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 県教委や市教委と協議を行い、講師派遣などの形で、ガイドブックを用いたSSTを現場で実施する。 2) 1市2町のいずれかと今後の研修の内容や方法について協議する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 市町職員啓発研修 <ul style="list-style-type: none"> ・1市2町の担当者調整することとなった。 2) ガイドブック（GB） <ul style="list-style-type: none"> ・KTCおおぞら学園でGBを用いた研修を実施した（7/12） 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 市町職員啓発研修 <ul style="list-style-type: none"> ・高松市は、まるごと相談員、健康づくり推進課と調整する。 ・直島町は、コロナ感染が落ち着いてから実施する。 2) ガイドブック（GB） <ul style="list-style-type: none"> ・県高校教育課の教育相談会議でGBを説明する（11/12）。 ・アルプスカがわの学生プログラムでGBを用いてみる。その結果でGBを修整していく。

no.	部会名	今年度の目標	4～6月の振り返り	課題	7～9月の目標	7～9月の評価と課題	10～12月の目標
8	こども部会	<p>①福祉サービスニーズアンケート結果についての意見交換/上半期</p> <p>②児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会（1回）/下半期</p> <p>③小・中学校の教頭先生との合同研修会に参加（1回）上半期6月</p> <p>④相談支援専門向けの研修会の開催（1回）/下半期</p> <p>⑤部会開催（年2回）上半期/下半期</p> <p>⑥HPの事業所情報の追加・更新・改訂/上半期</p>	<p>4月：部会開催なし</p> <p>5月：協議会HPの更新(新規事業所掲載・相談支援事業所情報更新)</p> <p>6月の教頭先生との研修会に向けて基幹中核と電話で内容の相談を行う。6/15の教頭先生との研修会で「子どもの使える福祉サービス」についてこども部会から30分程度、情報提供の予定</p> <p>6月中に部会員にメールで今年度の計画や現況を報告予定</p>	<p>・コロナ禍で部会開催が出来ていない。</p> <p>・昨年度にHP掲載予定だった福祉サービスニーズアンケートの結果について部会内で最終の確認作業が出来ていない。</p>	<p>7月：コロナの状況を見ながら可能であれば部会を開催。※開催が難しい場合はメールで意見交換を行い集約する。</p> <p>7～9月：福祉サービスのニーズアンケートの結果については、上半期のHP掲載を目指す。</p>	<p>コロナウイルスの感染拡大により、対面による部会は開催出来ていない。①福祉サービスのニーズアンケート結果については、最終修正の段階。9月末のHPの掲載を目指している。⑥新規の放課後等デイサービスの情報に関しては随時情報を収集しHP上に掲載している。</p>	<p>②連絡会の開催について④研修会の開催について、どのような方法で実施するのかについてを検討する。コロナの感染状況を見ながら対面での部会が出来る様であれば開き、難しい場合はメール上のやりとりとする。</p>
9	医療的ケア部会	<p>医療的ケア児等コーディネーターの活用・保健師との連携・医ケア児支援センターとの連携</p>	<p>5月に会議予定でしたが、行えていません。圏域の行政・保健師さんがワクチン接種でお忙しく、今後の予定も未定です。</p>	<p>・コロナ禍での会議の開催方法・医ケア児支援センターの活用について</p>	<p>・医ケアコーディネーターの会議を開催 ・医ケア児支援センターとの連携について検討</p>	<p>7月に入り医ケア部会を開催。その中で母子保健コーディネーターと医ケアコーディネーターとの連携や役割の確認の機会を持つことにした。しかしコロナ禍でいつこの機会が持てるかは未定。相談の場所確保の目的で、基幹相談支援センターの職員にも医ケアコーディネーターの研修受講の依頼を行った。</p>	<p>コロナの感染拡大中の中、会議の開催は難しい。コアメンバーでの会議にしていくべきか、zoom会議のような形にするかを今後検討していく。県で設立した「ソダテル」さんとの連携をしながら、母子保健コーディネーターと医ケアコーディネーターとの研修機会を持ちたい。</p>

no.	部会名	今年度の目標	4～6月の振り返り	課題	7～9月の目標	7～9月の評価と課題	10～12月の目標
10	居宅サービス事業所連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組む事項 調査結果をもとに、どのような内容の研修を開催するか検討する。 ・コロナ感染状況を踏まえ、研修の形態について検討する。 ・主な予定 実行委員会の開催 連絡会の開催 サービス提供責任者研修の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月 第1回実行委員会開催 ・2年度困りごと調査の結果に基づき、今年度の研修について考える。「困難ケースへの対応」 「ヘルパーの離職 人材不足」 「新型コロナウイルス感染時や濃厚接触とされた時の対応」の3つが挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染状況により、どのような形態の研修がよいのか、事業所が参加しやすいのか、検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の連絡会を開催し、「新型コロナウイルス感染時等の対応」について、体験した事業所の情報提供、参加者での情報共有をする。 ・研修の形態については要検討。（会場、オンライン等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの感染状況の影響で、第1回連絡会の開催ができていない。 ・オンラインでの連絡会開催については、まず協議会側（当連絡会側）の発信態勢の整備について、実行委員で協議して検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を開催するか、各実行委員と連絡を取って、当連絡会側のオンラインの発信態勢の整備について協議する。 ・発信態勢を整えることができれば、オンラインまたはハイブリッド形式での連絡会を開催する。
11	当事者家族会連絡会	<ul style="list-style-type: none"> 合理的配慮の提供が、高松圏域で進むように、周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 直島町が、ホームページ上に当事者団体・家族会連絡会で作成したコミュニケーションボードを5月にアップしてくれています。 	<ul style="list-style-type: none"> 移動支援利用に関する好事例を各家族会に電話・メール等で問い合わせをしたが、成果がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き合理的配慮の提供が、高松圏域で進むように、周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 8月28日（土）に障害者に対してのデジタル改革の講演会を予定していたがコロナ禍の影響もあり中止とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き合理的配慮の提供が、高松圏域で進むように、周知していく。

no.	部会名	今年度の目標	4～6月の振り返り	課題	7～9月の目標	7～9月の評価と課題	10～12月の目標
12	地域生活支援拠点検討部会	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問系サービス見守り支援WGでは、今年度中に、地域生活を継続するために自立生活援助の活用が有効であることを関係事業所へ伝える。 ・事業所WGでは、「緊急時」の定義についての認識の統一を図り、昨年度参加できていない生活介護・短期入所・計画相談の各事業所に対して、周知・啓発を行う。 ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣については、引き続き希望事業所等への派遣調整を行うとともに、講師や派遣を受けた事業所等から現状や課題をうかがい、集約する。 ・部会全体での協議の場をもち、方向性や地域生活支援拠点の検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高松市緊急時支援事業についての検証を実施している。実際に生じた緊急時支援事業利用ケースを関係機関で振り返り、事業の検証を行っている。 ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣について相談があり、調整中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会も含めて、地域生活支援拠点を検討する場の整理が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会も含めた、地域生活支援拠点を検討する場についての整理を行う。 ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣について調整し必要なかたちで実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣について、3事業所からの希望を受け、実施した。また、今後のこの事業の運営についてや圏域の課題について、派遣に応じてくださった方からご意見をうかがう場所を9月に計画している。 ・（部会の動きということではないが）高松市、直島町の緊急時支援事業について見直し、再確認に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣の運営の課題を整理する。 ・訪問系サービス見守り支援WG）下半期に予定している「精神科病院、入所施設、グループホームから退院、退所の際に自立生活援助をいかに活用して地域生活を継続しているか事例を通して学ぶ機会」について詳細を次回に検討する予定。 ・高松市、直島町の緊急時支援事業について見直し、再確認後の動きを検証する。

令和3年度第2回 高松圏域自立支援協議会全体意見交換

* 黒字が最初のご意見ご質問で、赤字がその後、運営会議委員から寄せられたものです。

1. 各部会等や事務局の活動報告及び計画について、ご意見やご質問をご記入ください。もしご質問などで特にご指名したい方がいらっしゃるようにあればその方もご指名ください。

■発達障害のある方の支援が増えている中で、教育分野との関わりは必要であり、こども部会、発達障害部会、就労支援部会等から教育分野(一般校)に発信している活動は良いと思います。教員の方の異動もあるので、継続的な活動が大切かと思えます。

・部会別ではなく、共通する同じテーマについて、複数の部会が協力して取り組み事も有効ではないかと感じました。

■精神・身体ではピアサポーターに関することについて話し合われているようですが、今後、知的の方でも取り上げられる予定はありますか？

・基幹相談の会議でもピアサポーターに関することが継続して話し合われていますが、知的の方のサポーターについては進んでおらず、気になるところです。当事者会の情報も集めながら、今後、知的障害者部会でも検討できたらと思います。

2. その他、協議会全体についてご意見やご質問があればご記入ください。

■Zoom会議を実施しやすくするため、協議会で取り組める事はないでしょうか？

例：協議会でZoom契約をして各部会で利用できるようにできないか？

協議会の部会メンバーの中で法人や事業所からZoom会議を許可されていない方などの様に参加してもらおうか？ハイブリットとの併用以外に方法はないか？

・確かにそうですね。いい方法があればいいと思います。協議会に関するものですが、利用支援の担当者会議についても、Zoom会議ができない事業所が多いようです。

・コロナ禍での活動のため、いろいろと決定が難しいと思うので、会議などの開催は臨機応変に対応させていただきます。

・ZOOM契約を協議会でするのは賛成です。今後も、コロナ対策は必須かと思えます。オンラインでの会議が来ると、インフルエンザの拡大期にも今後対応できると思えます。

・現在、協議会にてweb会議ができる環境を検討中です。アカウントの管理も合わせて安全に利用できる形を提案させていただきたいと思えます。

■部会リーダー、サブリーダーの任期を決めてはどうか？(例えば2年)

・賛成です。継続(再任)ありとして、任期を決めるのはいいと思います。

■地域の課題を吸い上げ、課題に応じた部会の立ち上げ、具体的な取り組みを日常業務がご忙な中、相談支援専門員の方が中心となつての運営ありがたく思います。この運営状況を地域の関係者の方々がどの程度知ってくれているのか？気になるところです。

・協議会の取り組みが伝わらない、協議会の存在すら知らなれないという関係者はまだまだ多くいると思います。部会に参加したり、部会主催の研修会に参加すると協議会の存在を知る事になると思います。関わりが無い方々に情報をどの様に発信していくかが課題だと思います。地域の関係者というのはどのあたりの方々をイメージしていますか？

■地域移行や意思決定支援などあらゆることについて、それぞれ研修や情報提供など発信していると思いますが、なかなか現場にまで広く届けていくことの難しさを感じます。部会などでも主たる役割を担い、かつ、地域の核となつているような機関（アルプスカがわや定着支援センター、基幹センター、社協 等々）や各事業所が開催している研修やイベントの情報なども含めて、情報が集まっているところがあれば、もっと、いろんな情報や話題が現場にも広がっていったりするのでしょうか。もしかすると、既に協議会または他のシステムなどで取り組んでおられるにもかかわらず、その情報にアクセスできていないのかもしれないかもしれませんが、いかがでしょうか。

・情報発信や研修案内は協議会 HP の掲載とメールで一斉発信という方法が一般的だと思います。現場の方々に広く届けるためには、各事業所や施設の核となる方がいて、情報を集約し、職員に伝達していくしくみが必要だと思います。管理者やサービス管理責任者に対して定期的に職員が研修を受ける必要性を感じてもらいたいです。忙しいから研修を受けないで業務を続けると必ず自己流になり良い方向にはいかないと思います。ベテラン、新人を問わず、定期的に研修を受け、自分の支援や事業所の支援について研修を通じて振り返り時間（初心に戻る、基本に戻る）が必ず必要だと思います。

■オンラインで開催といっても、それぞれの環境で難しいことがわかりました。コロナが落ち着いているときを見計らって（予測が難しいですが）、集まるようにするためには、予備日をいくつかとっておくというのは、いかがでしょうか？

・予備日を作る案は良いと思います。それ以上にオンラインで会議が出来る体制作りを各機関で取り組む事が必要だと、第6波の感染拡大を受けて痛感しています。

■コロナ禍の中で、各部会ともに重要なテーマや地域課題について協議いただき、ありがたく感じている。各部会で協議をいただいた内容について、どのような活用をしたり、協議の結果、資源として不足しているもの、早急に施策に反映する必要があるものなど、取りまとめたものをどのように活用するのかを考える時間を必要。テーマや課題、その中での優先順位などを

・各部会それぞれで課題や取り組みテーマがあると思います。
限られた人材と時間の中で、全てを協議し解決する事をめざすのか、（現行）多くの課題の中で優先順位を付けてベスト3くらいに絞り、協議会全体で取り組み方が良いのか、今後の協議会運営のあり方について、時間を取って話し合う必要があると私も感じていきます。）

・施策として圏域内の自治体で予算化が必要であれば、お聞きして必要があるなら予算の提案をしたいたと考えております。また他の自治体が所属する自立支援協議会で施策として採用され、予算化された案件があるのか。もし情報があればお聞きしたいと思いたしました。

■今回、障害者、お年寄りを対象とした避難支援者名簿申請書を新しく作成しました。他の自治体で福祉関係の新しいツールなどの取組事例があれば知りたいです。